令和4年度 県立美浦特別支援学校 自己評価表

NO. 1

目指す学校像	◆ 自立と社会参加を目指し、児童生徒一人一人の能力や特性に応じた教育を行い、生きる力を育成する。 ○ 生き生きと学び、成長できる学校【元気で ⇒ 自立】 ○ 互いを認め合い、尊重できる学校【なかよく ⇒ 尊重】 ○ 地域から信頼される学校【たくましく ⇒ 貢献】		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>昨年度は、「個に応じた教育活動の充実」を重点項目として、実態把握を大切にし、指導を進めてきた。今後、学習指導要領に示された各教科の資質・能力についての理解を深め、資質・能力を伸ばす学習の充実を図っていく必要がある、校内研究のテーマにも設定していく。</p> <p>「キャリア教育・進路指導の充実においては、コロナ禍により、実習等制限がある中ではあったが、可能な範囲で実施した。引き続き、状況をみながら、オンラインの活用なども視野に入れた臨機応変な対応で、指導の充実を図っていく。</p> <p>「心づくりの充実」については、道徳の授業も定着してきている。また、普段の様々な指導場面においても、ほめて認める姿勢を大切にし、自己肯定感の育成及び向上を図っていく。</p> <p>「地域とともにある学校づくり」については交流及び共同学習等も、コロナ禍の中、間接交流等工夫しながらの活動が定着してきた。PTA活動等も今後も感染症対策に留意しながら、オンライン等も活用し、できることを進めていく。「センター的機能の充実」も同様に感染状況に注視しながら安全に巡回や来校相談を実施できた。今後も担当職員のコンサルテーションのスキルアップ等を目指し、係内で研修をしていく。</p> <p>「健康で安全・安心な体制整備」については、保健・安全面等に関する予定していた訓練等がコロナ禍により実施できないものもあった。今後は感染状況に留意しつつ、可能な限り、訓練を実施できるよう、実施内容等の検討も引き続き行っていく。また、学校事故防止に向けたヒヤリハット事例共有も徹底していく。</p>	資質・能力を伸ばす学習の充実	① 客観的な実態把握を踏まえた適切な目標及び指導内容の設定と学習評価の工夫	
		② 実践的研究への取組による自立活動の充実	
		③ 楽しい授業、分かる授業、個に応じた授業の実践：ICTの活用、指導方法等の工夫改善、ICT活用指導力の向上	
	個に応じたキャリア教育・進路指導の充実	④ 系統性を踏まえた計画的・段階的なキャリア教育及び進路指導の推進	
		⑤ 企業や関係機関等への積極的情報発信による理解啓発と連携の強化、SDGsの取り組み	
	心づくりの充実	⑥ 道徳の授業及び道徳教育の実践による豊かな心の育成と気持ちの良いあいさつの励行、いじめの早期発見	
		⑦ ほめて認めることによる自己肯定感の育成及び向上	
	地域とともにある学校づくり	⑧ 授業参観や情報発信等への工夫した取組と就学・転学・入学にかかる十分な情報提供	
		⑨ 感染症対策を考慮した学校間交流、居住地校交流等への取組	
		⑩ 家庭及び関係機関との連携の強化	
	センター的役割の充実	⑪ 関係諸機関との連携を密にしたネットワークづくりの一層の推進	
		⑫ 障害のある乳幼児・児童生徒及び保護者に対する相談・支援の一層の推進	
	健康で安全・安心な体制整備	⑬ 実態に応じた体力づくりや保健学習の推進と効果的な指導の工夫	
		⑭ 児童生徒及び教職員の事故防止に向けたヒヤリハット事例共有の徹底	
		⑮ 食育指導の推進と食物アレルギーへの的確な対応及び摂食機能に応じた安全な食事指導への取組	
		⑯ 専門家との連携と健康や安全への配慮による医療的配慮・医療的ケアを要する児童生徒の学校生活支援の充実	
		⑰ 緊急時及び感染症対策に対応した訓練等の実施と改善・充実	
		⑱ 安全な通学の確保に向けたバス会社や保護者との連携	
		⑲ 整理・整頓・清潔・清掃の推進	
		⑳ 勤務環境や業務の改善とスクールサポートスタッフの活用や地域の福祉事業所への委託による負担軽減	

評価項目	具体的目標	具体的方策	課題及び次年度(学期)への改善策	
教務部	企画	企画係会を定期的実施し、各部間の情報交換を行い、学習活動や行事等の調整を行う。 ⑧⑩		
		各部、分掌部との連携を密にし、円滑な学校運営に努める。		
		学校評価結果を学校運営に生かせるようにする。	学校評価結果を踏まえて、学校運営等の見直し、改善を継続的に行う。併せて、アンケート③⑥⑧	
	庶務	スクールサポートスタッフを活用し、職員の作業の効率化を図る。	スクールサポートスタッフの職場定着支援と作業調整を行う。 ⑱⑳	
		公文書の配付及び公文書に関する物品を購入し、学校運営の推進に努める。	公文書を整理・保管する。各学級の児童生徒数を把握し、配付する。 ⑱⑳	
		教育活動に必要な公文書の作成や整理が的確に行えるように、マニュアルづくり、点検を適正かつ円滑に行う。	公文書の検査を定期的実施し、適切な処理ができるよう周知する。 ⑱⑳ 会計に関するマニュアルや書式の不備修正、変更をし、簡潔な会計処理ができるようにする。各学部の要録の記入例を見直し、新様式で作成して周知する。出席簿は、毎月見本データを更新する。 ⑱⑳	
	教科書・図書	教育活動での図書の活用を図る。	蔵書や新規購入の本の紹介を随時行う。 ③ 図書委員会と連携し読書週間の設定や周知などを行う。 ③	
		児童生徒が使いやすい図書室にするため、図書委員と連携しながら図書室の環境を整える。	図書室の本の整理や環境づくりを行う。 ⑱	
		教科用図書の選定を実施し、関連する事務処理を適切に行い、教育活動が円滑に行われるよう努める。	教科用図書選定協議会、教科書選定委員会、教科書調査委員会などの会議、及び教科書に係る事務処理を適切かつ計画的に行う。 ③	
		職員や児童生徒に対して人権教育を推進する。	人権教育に関する講話やVTRを視聴することにより、人権に対する理解を深める。 ⑥⑦	
人権教育・基本研修	新採用教員（初任者、2年次、3年次）研修、中堅教諭等（前期）（後期）資質向上研修の充実を図る。	初任者研修では、全職員の共通理解の下、教員の職務を遂行する上で必要な事項に関する理解を深め、授業研究などの実践的研修により、基礎的・基本的な資質・能力の向上につなげる。 ①②③ 2年次、3年次、中堅教諭等（前期）（後期）資質向上研修では、OJT研修を十分に機能させ授業力の向上及び改善にあたる。 ①②③		
	研究・研修	対象となった教科を中心に、育成を目指す資質・能力や、主体的・対話的で深い学びの手立てなどの理解を深められる研修を企画・運営する。	学部のニーズに応じた研修となるよう、教科については、学部ごとに決めていく。また、学年（またはコース）ごとに研修を進めていくスタイルとする。 ①③ 学習指導要領解説などを見ながら、理解を深められる研修方法を検討する。 ①③ 話題提供となる授業提案者を一人決めていくことで、より具体的に情報交換をしやすくしていく。 ①③	
		教材や指導案、略案などの共有化を推進していく。	定期的に「教材のひろば」への入力呼びかけ、整理などを行っていく。 ①②③⑳	
学習指導部		新学習指導要領の内容に沿って、個別の指導計画、年間指導計画などの書式等を見直し、円滑な利用を促す。	各書式・記入例の整理、係や部、教育計画推進委員会での検討を行い、全体への周知を図る。 ①④⑩	
	各教科領域の指導の充実のための教材管理及び活用しやすい教材教具の整備検討を行う。	各教科領域の教材管理（備品、消耗品）、教材教具室の整備検討（教材の置き場所）を行う。 ①⑥⑬⑱		
	各教科領域の新規購入教材の紹介、教材写真一覧の周知を行い、教材教具の活用を促して学習指導の充実を図る。	教材教具写真一覧の整理・周知をする。また、校内教材・教具展を実施し、同時に各教科領域の新規購入教材を紹介することで学習指導の充実を図る。 ①②③⑥⑬		

学習指導部	視聴覚・情報教育	タブレット、PCを含めたICT機器の学習活用への推進を図る。	タブレットPC・電子黒板を主とした研修会を開催することで授業への活用に向けた知識・技能を伝達する。また、係内・校内研修を行うことで、職員への技術的サポート・適切な助言を行えるようにする。 ①③		
		タブレットや教育情報ネットワークのクラウドドライブの安定した授業活用のための整備を行う。	オンラインでの行事や集会、各教科の授業をスムーズに展開できるように、クラウドドライブへの教育用データの格納に関する整備やタブレットのストレージ管理を行う。 ①③⑯		
		校務用セグメントの安全的・安定的運用と校務用PCの整備を図る。	校務用PCを最新の状態になるように必要に応じて業者の技術的サポートを受けて更新を行う。旧式の端末と新規端末を入れ替えながら教員一人につきPC1台の体制を整えたとともに、校内独自の情報共有ネットワークの整備に向けて準備する。 ①③⑯⑳		
研究諸団体	本校の研究テーマに沿った特教研の研修会がオンラインで円滑に運営にできるよう、業務を遂行していく。	管理職や関連する係(研究研修係)と連携を図りながら進めていく。オンライン実施にあたり、情報教育係と連携し、接続確認など事前確認を十分に行う。 ①②			
	茨高文特別支援学校部門大会において、生徒が特別支援学校の文化活動の紹介を活発にできるよう支援していく。	本校高等部内において生徒会実行委員会メンバーの推薦基準について図り、適任者を選出する。生徒実行委員会において、生徒達の意見を集約しながら進めていけるようにする。 ⑦⑩			
通学指導	スクールバスが安全かつ円滑に運行できるように努める。	号車ごとに担当者を決め、各コースやバス停、乗車する児童生徒の実態を十分に把握する。また、定期的に添乗指導を行い、乗車中の様子を把握する。 ⑰⑱			
		SB連絡協議会だけでなく普段から運転手や乗務員と情報交換を行い、連携を密にする。 ⑰⑱			
	登下校の安全の確保と校内の体制の整備を進める。	運転手や乗務員へ緊急マニュアルに伴う情報を提供する。また、職員にも緊急時に対応を周知する。自主自力審査会において安全な通学路や通学方法を密に検討できるよう、写真や地図データなどの情報を揃えておく。 ⑰⑱			
生徒指導部	校内の危機管理マニュアルを管理、運営し、学校管理下における児童・生徒の安全確保を図る。また、改善の必要がある点は随時見直し、危機管理意識を高める。	警察と連携して、登下校や家庭における交通安全や生活安全の意識を高める。 ⑩⑪			
		児童生徒の緊急搜索カード、児童生徒の顔写真一覧を作成する。職員間の共通理解を図る。 ⑰			
		緊急時に備え、行方不明児童生徒の搜索訓練、防犯訓練を実施し、マニュアルの内容について定着を図る。 ⑰			
		生徒指導面において学校全体での共通理解が必要と思われる児童生徒の確認を行い、全職員で共通理解を図る。 ⑰			
特別活動	児童生徒会や委員会の一員であることを自覚し、学校全体の活性化に努める。また他学部生との活動を通して、校内間の交流を図る。	毎月2回中央委員会を招集し、児童生徒がさわやかマナーアップ運動や生活チェック、募金活動や広報活動などを企画・運営する。 ③④			
		児童生徒集会の企画・運営を行う。集会において、委員会からのお知らせや学部間の情報交換の機会を設ける。 ③④			
部活動	生徒の興味・関心や特性を考慮して運営をする。また、安全面に配慮し競技に取り組めるようにする。	競技スポーツ部(週3回)や音楽部(週1回)の部活動を実施するとともに、感染症対策を実施し、安全に運営する。 ⑬			
		実施計画案などをもとに伝達、説明を行い、職員の共通理解のもと、参加体制を明確にする。 ⑬			

進路指導部	進路指導	進路に関する情報提供、相談機能の充実に努める。	進路ハンドブックの更新、進路座談会（小学部・中学部）、進路相談（年2回）、進路だ④より（年5回）、進路掲示板の更新、福祉事業所ガイドブックの作成、ホームページを通じて本校のキャリア教育、進路指導に関する情報を発信する。		
		児童生徒の将来の生活を自己決定、自己選択できる進路指導・支援を推進する。	小学部職場見学、中学部職場見学・体験、高等部現場実習など外部との連携を取り入れた④キャリア教育、進路学習を計画的に進める。		
		関係機関と連携した進路支援に努める。	自立支援協議会へ参加し、児童生徒の進路や卒業後の生活についての情報収集及び啓発を④⑤行う。 福祉課、相談支援事業所と情報交換、連携を行う。 ハローワーク、障害者就業・生活支援センターと連携し、生徒の就労先や体験先を新たに開拓する。		
卒業生支援	卒業生支援	関係諸機関と連携して、卒業生の現状把握・追支援に努める。	企業、福祉事業所、相談支援専門員、障害者就業・生活支援センター、職業センター等と⑤連携し、個別の移行支援計画等を活用しながら卒業後の生活への移行を行う。 卒業後1年目3回、2年目2回、3年目1回の移行先視察訪問、電話連絡を行い、卒業生④の現状把握に努める。		
		同窓会と連携して、同窓会総会や成人を祝う会の運営・支援に努める。	役員会に同席し、役員との連携を密にしてスムーズな運営ができるよう計画的に進める。④		
		社会性や豊かな人間性の向上、好ましい人間関係を育むことを目指し、正しい相互理解ができるような交流活動を推進する。	地域・保護者・学校間・地域団体と連絡を密に行い、児童生徒の実態や特性・地域性に⑨応じた交流相手先の精選、交流内容の検討を行っていく。		
地域支援センター	交流及び共同学習	地域・保護者に対する理解啓発、校内職員間の共通理解に努める。	交流だよりの発行や、近隣施設における学校案内の展示を通して、本校の取り組みについて⑩の情報発信を行い児童生徒に対する理解を深める。		
		校内・関係機関からの依頼に応じた支援活動の充実に努める。	学年や学部で支援の必要な児童生徒について、アイデア会議・ケース会議などを実施した⑩⑪⑫り、関係機関等と連携したりする。		
	校内支援	障害の多様化に伴い、教員の指導力の一層の向上を目指すために、専門的かつ実践的な指導に生かせる研修会の実施に努める。	外部講師との連携を図り、セラピストによる巡回指導及び摂食指導を企画、運営する。⑪⑮ 教育的ニーズに応じた内容を取り入れ、専門性の向上及び指導の充実に目指した研修会の①③企画・運営をする。また、オンラインを活用し、研修や打ち合わせ等効率的に工夫できる④⑦⑳方法を工夫する。		
		各園、学校、関係機関等との信頼関係づくりに努め、相談支援活動の一層の充実に努める。	限られた時間の中でより実践的具体的な提案や情報提供ができるように、事前の連絡や情報交換を密にし、係内でも情報共有に努める。⑪⑫ 依頼元のニーズと状況に応じた提案や助言ができるように、コーディネーターとしての専門性向上に努める。⑫ 依頼内容や状況に応じて、複数名で相談支援活動に対応する。⑫		
地域支援	各市町村教育委員会や関係機関との連携を密にし、就学・転学に関する情報提供や情報交換に努め、教育相談を充実させる。	関係機関と連携を図りながら、障害のある乳幼児・児童生徒及び保護者のニーズに応じて、学校見学や体験学習、相談活動を実施する。⑧⑪⑫ 本校のセンター的機能について、ホームページやリーフレットを活用し、積極的な情報発信を行う。⑧⑪⑫			

渉外部	P T A 地区	地域との連携を図り、卒業後の在り方を考える場を提供する。	地区代表と係教員が連携して活発な活動ができるようにする。 ⑩		
			地域に根差した活動ができるように諸機関との連携を深め、情報の共有ができるようにす ⑩		
	企 画 A	学校、役員、地区PTA担当、保護者、関係機関と連携を図り、PTA活動の支援をする。	役員会や委員会において、本年度できる活動を吟味しながら計画・実施し、保護者相互や関係機関との連携を支援していく。役員会や委員会へはリモートでも参加できるようにするなど、保護者が負担なく活動できるように支援する。 ⑩		
広報 委 員 会	P T A 会	広報誌「はばたき」発行に関して、委員会の開催方法や掲載内容を精選し、広報委員の原稿作成・編集作業の効率化を図る。	ZOOMを活用した委員会を開催したり、掲載内容の精選したりして、仕事分担をすることで保護者の負担を減らしながら、活動を支援できるようにする。 ⑩		
			本校及び他校の広報誌の掲示することで、情報の共有できるようにする。 ⑩		
保健安全指導部	医 療 的 ケ ア	医療的ケア対象児童生徒が安全に学校生活を送れるよう支援する。	主治医や巡回指導医からの指導・助言を基に、対象児童生徒一人一人についての実態把握 ⑭⑰や必要な支援、緊急時の対応について関係職員が共通理解を図れるようにする。具体的な避難訓練、緊急時対応訓練を想定し、教師の動き、連絡方法、協力体制について、関係者全員で共有する。ヒヤリハットへの対応と改善策を関係者全員で共有する。		
		保護者・担任・養護教諭・看護職員がスムーズな連携を図れるように支援する。	月1回の医療的ケア安全委員会や校内安全委員会、学期ごとの保護者会を行うことで、情報交換を密に行い連携を図る。 ⑩		
	保 健 指 導	児童生徒が健康に対する関心や知識を身に付け、自分を大切に感じ主体的に予防に取り組めるような保健教育を行う。	保健学習の年間計画を作成し、児童生徒の実態やニーズ合った内容や指導ができるように ⑬する。養護教諭をゲストティーチャーとして行う授業を充実させる。学習に必要な情報や資料の提供を行う。委員会等と連携し、各学年の取り組みを発表できるようにする。		
怪我や事故が起こらない対策、感染予防に取り組み、環境づくりに努める。		ヒヤリハット事例や感染症について、その具体的な対応策と、必要に応じた情報を発信することで、安全について教員一人一人が意識できるようにする。体育科との連携を図り、体力の向上を図る。 ⑭			
緊急時において、適切な判断と連携による対応を行うことができるようにする。		「てんかん発作の対応マニュアル」他、心肺蘇生法やAEDの操作などの職員研修動画を ⑰計画的に視聴し、初期対応の大切さや職員間の連携についてイメージがもてるようにする。学年の実態に応じた、予想される緊急時を想定したシミュレーション研修を行い、緊急時の対応への意識を高める。			
環 境 安 全 指 導	災害時及び待機時の減災のため、ヘルメットをかぶり、非常用持出袋を持参しての避難の定着を図る。	避難訓練や初期対応訓練時に実施を呼びかけるとともに、終了後の反省で実施状況を確認 ⑰する。			
	災害時の物品について、昨年度の避難訓練の見直しをもとに購入、せいろを行う。	昨年度の見直しに沿って避難訓練を行い、必要な物品について再検討しながら適切に購入 ⑰していく。			

環境安全指導（環境）	校内の安全点検を実施し、事故のない安全な環境づくりに努める。	毎月職員で分担して安全点検を行い、補修等の依頼があった場合は速やかに対処する。 ⑱		
	校内の美化に努め、きれいな環境づくりを目指す。	中学部・高等部園芸班の作業学習の活動として苗の移植・管理等を依頼する。清掃用具の ⑱⑳ 整理整頓と管理、教室備品の管理と補修のために、学期末に巡回点検や交換を行う。		
	校内清掃計画を進め、児童生徒が取り組むことで、学校をきれいにする気持ちや大切にしようという気持ちを育てていく。	全児童生徒による校内クリーン作戦（学年毎）を行う。 ⑦⑱ 他学年・他学部の取組みについて互いに称賛できるよう、クリーン作戦の様子を一斉に掲示する。		
	グラウンドの除草作業を計画的に全職員で行い、整備されたグラウンドづくりに努める。	グラウンドの除草作業を計画的に全職員で行い、使いやすく整備されたグラウンドの維持 ⑱ を図る。		
食育指導	栄養教諭及び各クラス担任による「食」に関する食育指導の推進を図る。	食育の掲示板や食育便りなどを通して食育への関心を高められるようにする。 ⑮⑯ 食に関する指導の全体計画及び、各学年の食に関する指導計画を作成するとともに運用に努める。		
	児童生徒が食を通して安全な生活が送れるよう努める。	食物アレルギーに関する研修の実施と、食物アレルギーや異物混入等の緊急時のマニュアルを周知する。 ⑮⑯		
	給食に係る衛生管理の意識向上に努める。	給食当番衛生チェック表の記入方法を職員に周知し、配膳時の衛生の意識を高め、安全な ⑮⑯ 給食の提供に努める。		
小学部	児童一人一人のニーズを把握し、それぞれの障害や発達段階、特性に応じた指導と支援の工夫に努める。	客観的な実態把握に基づいた目標や指導内容を設定し、学習グループの編成を行って授業 ①② の充実を図る。		
	健康の保持増進と体力の向上を図るとともに基本的生活習慣の確立を目指す。	楽しい授業、分かる授業、やってみたい授業になるように適切な学習評価を行い、教材教 ①② 具の工夫改善に努める。 ③		
	体験的な活動を通し、興味・関心の幅を広げ、主体的に取り組む態度と人と豊かにかかわる力を育てる。	チャレンジタイムや体育などにおいて実態に応じた体力づくりの推進と運動量の確保を行 ⑬ い、体を動かす楽しさを感じるように努める。		
	家庭・地域社会・関係機関との連携及び交流教育の充実を図る。	あいさつや返事、社会生活に必要なスキルやルールを身に付けるなど基本的生活習慣の確 ⑥⑨ 立に向けた指導の充実を図る。		
		児童一人一人を認め、思いや考えを大切に、自己肯定感の育成に努める。 ⑦		
		多様な学習活動を取り入れ、学校生活全般を通して人とかかわる基礎的な力を育てる。 ⑥⑦		
小1	自分でできることを増やすとともに、様々な活動を通して興味・関心の幅を広げ、自分から活動しようとする意欲を育む。	児童一人一人の発達段階や障害の特性、実態等を丁寧に把握し、目標や手立ての設定を行 ①③ う。教師間で共通理解を図りながら進めていく。 ⑦		
	学校生活のリズムを整え、健康で丈夫な身体をつくとともに、個に応じた基本的生活習慣を身に付けることができるようにする。	体育やチャレンジタイムの時間などを通して運動量を確保し、児童の実態に応じて楽しく ⑬ 身体を動かすことができるようにする。		
	情緒の安定を図りながら教師や友達とかかわりを深め、個に応じたコミュニケーションの力を育てる。また、集団の一員としての意識をもてるようにする。	家庭と情報交換をしながら、それぞれの発達段階に応じた着替え・食事・排せつなどが身 ①⑩ に付くように連携・協力して支援していく。		
		一人一人の児童が発信する思いを受け止め、教師との信頼関係を築き、安心して学校生活 ⑦ が送れるようにする。		
		個に応じたコミュニケーション手段を用いて、教師や友達とかかわりあえるよう支援す ①③ る。 ⑦		
	学校生活全般や集団での活動などを通して、いろいろな人とかかわる楽しさを感じるこ ①③ とができるようにする。 ⑦			
	個別面談や連絡帳、学年便り・週予定表における発信、学年懇談会などを通して、家庭と ⑧⑩ の緊密な連携を図る。			

小2	自分でできることを増やすとともに、様々な活動を通して興味・関心の幅を広げ、自分から活動しようとする意欲を育てる。	一人一人の発達段階や障害の特性に応じた支援を教師間での共通理解のもと進めていく。 ①③⑦		
		学習活動に見通しをもち、自ら取り組めるように教材・教具の提示の仕方や授業の構成などを工夫し、分かりやすく達成感を得られる内容を設定する。 ①③⑦		
	心身の健康の保持増進、体力の向上を図るとともに、個に応じた基本的生活習慣を身に付ける。	体育やチャレンジタイム、遊びの時間などを通して運動量を確保し、児童の実態に応じて楽しく身体を動かすことができるようにする。 ⑬		
		着替え・食事・排泄などの基本的生活習慣が個の実態に応じて適切に身に付くように、家庭と連携を図りながら支援する。 ①⑩		
	情緒の安定を図りながら友達や教師とのかかわりを深め、個に応じたコミュニケーションの力を育てる。また、集団の一員としての意識を高める。	児童一人一人の思いや興味・関心を大切にし、自立活動や生活全般を通して、個に応じたかかわりの工夫に努める。 ①③⑦		
		集団での体験的な活動を通して、友達のよさを認めたり、かかわりを増やしたりすることで、楽しくのびのびと取り組むことができるようにする。 ①③⑦		
家庭や関係機関との連携を図り、豊かな生活づくりを支援する。	学年だよりや週予定表などで情報発信をすると共に、個別面談や連絡帳、学年懇談会などを通して、家庭との緊密な連携を図る。また、関係機関との連携を図り、安全で安心な生活が送れるようにする。 ⑩⑪			
小3	様々な活動を通して興味・関心の幅を広げ、主体的に活動しようとする態度を育てる。	児童一人一人の実態を的確に把握し、発達段階や障害の特性に応じた支援の充実に努める。 ①③④⑦		
		児童の要求や興味・関心を大切にして、学習環境や教材・教具の工夫に努める。 ②③⑯		
	心身の健康の保持増進、体力の向上を図るとともに、基本的生活習慣の確立を図る。	体育や毎日のチャレンジタイムの時間などを通して運動量を確保し、体を動かす楽しさを感じるようにする。 ⑦⑬		
		感染症対策及び食事・排泄など、個に応じた基本的生活習慣の確立を目指す。 ⑮⑰		
	情緒の安定を図りながら、個に応じたコミュニケーション力を育て、友達や教師とのかかわりを深める。また、集団の一員としての意識も高める。	個に応じた適切なコミュニケーションが図れるように支援するとともに、自立活動の時間や道徳の授業を通して集団を意識した学習活動を設定する。 ②⑦		
		学校生活全般を通して、順番、あいさつ、言葉遣いのルールを意識し、定着を図っていく。 ⑥⑦		
家庭や関係機関との連携を図り、豊かな生活づくりを支援する。	個別面談や日々の連絡帳を通して、家庭との緊密な連携を図る。また、家庭や関係機関との連携を通して、児童が安全で安心な生活が送れるように支援の充実に努める。 ⑧⑩⑱			
小4	個に応じた基本的生活習慣の確立を図り、様々な活動を通して興味・関心や経験の幅を広げることができる。	一人一人の実態を多面的に把握し、発達段階や障害の特性を考慮した指導の充実と教材の工夫に努める。 ①③		
		個別の指導計画における個々の目標を担任間で共通理解し、段階的・継続的な指導内容、方法の工夫に努める。 ①③④		
	体を動かす楽しさを身に付け、心身の健康の保持増進と体力の向上を図る。	チャレンジタイムや体育において個々に応じた指導や支援を継続して行い、運動量の確保と体を動かす心地よさを感じられるように努める。 ⑬		
	自分の思いや考えを伝えることができるように、個に応じたコミュニケーションの力を育む。また、集団の一員として主体的に行動できる力を育む。	楽しく安心して生活できる環境づくりに努める。児童の要求や興味・関心を大切に、個に応じた適切なコミュニケーションが図れるように支援する。 ①③⑦		
		人とかかわる力をのばす学習内容・活動を工夫し、実践の充実に努める。 ①③⑦		
	家庭・関係機関との連携を図り、豊かな生活づくりを支援する。	個別面談や学年懇談、連絡帳などを通して家庭との緊密な連携を図る。 ⑩		
家庭との共通理解のもと、利用している関係機関との緊密な連携を図り、安全で楽しい生活が送れるようにする。 ⑩⑪				

小5	一人一人の発達段階に応じた学習や活動を通して、興味・関心の幅を広げるとともに、自ら取り組もうとする力を育てる。	一人一人の実態を的確に把握し、発達段階や障害の特性を考慮した指導の充実と教材の工夫に努める。①②③	
	安全な生活環境に努め、健康の保持増進や体力の向上を図るとともに基本的生活習慣の確立を目指す。	個別の指導計画に基づき、段階的・継続的な支援を行うことで、「できた」「わかった」という達成感をもち、主体的に学習に取り組むことができるようにする。①②③④	
	小集団のかかわりの中で、自分の思いや考えを伝えることができるように、個に応じたコミュニケーションの力を育む。	感染症対策を考慮しながら教室内の環境を安全に整え、あいさつや社会生活に必要なスキルやルールなどが身に付くように支援する。④⑤⑯	
	家庭・地域社会・関係機関との連携を図り、豊かな生活づくりを支援する。	朝のチャレンジタイムや体育において、場や学習形態を工夫し運動量を確保するとともに⑬に、楽しく身体を動かすことができるようにする。	
		楽しく安心して過ごせる雰囲気づくりに努め、児童の要求や考えを大切にし、個に応じた適切なコミュニケーションが図れるよう支援する。②③	
小6	基本的生活習慣の確立を目指し、一人一人に応じた基礎学力やコミュニケーション能力の向上を図る。	児童一人一人を認め、自己肯定感を高めるとともに人とかかわる力を伸ばす学習内容や活動を設定する。⑥⑦	
	運動の習慣を身に付け、健康の保持増進や体力の向上を図るとともに、安全に生活する態度を育てる。	個別面談や学年懇談、連絡帳などを通して家庭との緊密な連携を図る。⑧⑩	
	体験的な活動を通して、一人一人の興味や関心の幅を広げ、主体的に取り組む態度を養う。	家庭との共通理解のもと、地域や利用している関係機関との緊密な連携を図り、安全で安心な生活が送れるようにする。⑧⑨⑩	
	家庭、地域社会、校内関係機関との連携及び交流教育の充実を図り、豊かな生活づくりに努める。	個別の指導計画に基づき、家庭との連携や担任間の共通理解を図り、児童一人一人の課題に沿った支援を進め、目標が達成できるようにする。①②③	
		あいさつ、返事、身だしなみを中心とした基本的生活習慣の定着を図る。②⑥⑦	
中学部	一人一人の障害の状態や、特性及び発達段階を踏まえた学習指導の実践に努め、主体的に活動する力を育てる。	児童が取り組みやすく、段階的に理解を深められるように教材の研究や教具、学習形態の工夫に努める。①②③	
	社会参加や進路への関心を高め、意欲的に学び生活する力を育てる。	チャレンジタイムや体育において一人一人に応じた指導や支援を行い、運動の楽しさを知り、運動の習慣を身に付けることで、体力の向上を図る。①③⑬	
	人とかかわりあう中で自らの役割を果たし、互いに認め合い仲間と協力する力を育てる。	栄養教諭や養護教諭、家庭と連携しながら、健康で安全・安心な生活ができるように努める。⑬⑭⑮⑰	
	家庭・地域社会・関係機関との連携及び交流教育を推進する。	植物の栽培や模擬体験などの活動を設定することで理解を深め、興味・関心が高まるようにする。③⑥	
		児童の興味・関心や意欲を大切にし、学習する楽しさや達成感を得られるように、一人一人の発達段階や障害に応じた指導と支援の工夫に努める。③⑦	
	日常生活の指導や自立活動、生活単元学習の授業など学校生活全般を通して、人とかかわる基礎的な力の育成に努める。②⑥⑦		
	個別面談や学年懇談・連絡帳などを通して、家庭との連携を図る。⑧⑩		
	家庭との共通理解の基、地域や利用している関係機関との連携を図り、安全で楽しい生活が送れるようにする。⑧⑨⑩		
	一人一人の実態把握に基づいた個別の指導計画作成と活用及び適切な評価を行う。①③		
	障害の特性や発達段階に応じた学習グループの編制をする。①③		
	学力の基礎基本の定着を図る。また、トレーニングや保健体育等で運動に親しみながら、健康や体力の維持・増進を図る。①③⑬		
	中学部のキャリア教育の視点を基に、学年ごとの段階的なキャリア発達を促す。①④⑤		
	作業学習、工場見学、職場見学・体験などを通して、働く意欲や態度を育て、将来の目標をもてるようにする。①④		
	自立活動での学習内容の工夫と充実を図る。①②		
	様々な場面での適応力を養い、人との望ましいかかわり方とおして、思いやりのある豊かな心を育てる。①②		
	連絡帳、学年だより、学年懇談、個別面談を通して保護者と情報共有する。⑩		
	外部専門家の巡回指導や医療相談を活用し、個別的教育支援計画の作成や活用につなげる。⑯		
	感染症対策を講じながら学校間交流、地域交流、居住地校交流の充実を図る。⑨		

中 1	一人一人に応じた基礎的学力の定着を図るとともに、主体的に学習に取り組む態度を育て、基礎的体力の向上を図る。	個別の指導計画に基づき、一人一人の実態や課題に応じた指導、支援を行う。 ①③	
		一人一人の障害の特性や発達段階について職員間で話し合い、学習グループの編成を工夫して、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。 ①③	
		健康と安全に留意し、トレーニングや体育において、個に応じた運動量の確保や体力づくりを行う。 ①③ ⑬	
	働くことや職業についての理解を深め、社会生活につながる基礎的な態度や能力を養う。	キャリア教育の視点に基づき、個に応じた生活習慣や身辺処理能力を身に付けられるようにする。 ①④	
		作業週間や校外学習等を通して、働くことや社会の仕組みについて興味・関心を高める。 ①④ ⑤	
		生徒が自己肯定感をもって学習に取り組めるような指導や支援に努める。 ①④ ⑦	
	集団生活を通して、人とかかわりあう中でのルールや役割が分かり、仲間と認め合い、協力しながら生活する力を育てる。	場に応じた適切なあいさつや言葉遣い、自分の考えや気持ちを表現する方法を身に付け、思いやりのある豊かな心を育てる。 ①④ ⑥	
係活動や作業学習などを通して、自分の役割を意識し、自己有用感をもって取り組めるように支援する。 ①③ ④			
家庭や地域社会、関係機関と連携を図るとともに、交流教育を通して経験を広め、社会性や好ましい人間関係を育てる。	連絡帳や学年便り、学年懇談、個別面談などを通して、家庭との密な連携を図り、情報を共有する。 ⑧⑩		
	学校間交流や居住地校交流を通して、社会性や好ましい人間性の育成に努める。 ⑥⑨		
中 2	一人一人に応じた基礎的学力及び基礎的体力の向上を図り、学習に取り組む意欲や態度を育てる。	アセスメントと個別の指導計画に基づき、実態や課題に応じたグループ編成をしICTを活用した指導や支援を行う。 ①② ③④ ⑦	
		安全・健康・感染防止に留意した環境で、トレーニングや体育、自立活動などにおいて、個に応じた体力づくりや食事の機会を設定し、身体能力の向上を図る。 ②③ ⑬④ ⑮⑯	
		生徒の課題を職員間で共通理解し、学習したことを日常生活の中で生かしていけるような環境を整え定着を図る。 ①④ ⑥⑦ ⑭	
	日常生活に必要な生活習慣及び身辺処理能力の向上を図るとともに、働くことへの興味・関心を高め、夢や目的をもって主体的に生活する力を養う。	キャリア教育に基づき、新しい生活習慣を知る機会を得、基本的な身辺処理能力を確実に身に付ける場を設定する。 ④⑥ ⑦	
		係活動や行事の代表者など分かりやすい役割を活用し、生徒自らが主人公になれる主体的に取り組める環境を整える。 ①④ ⑥⑦	
	集団生活を通して、人とかかわりあう際のルールや役割が分かり、互いを思いやり、協力しながら生活する力を育てる。	作業週間や職場・高等部見学などを通して、進路や働くことを主体的に考える機会をつくる。 ①③ ④⑦	
		様話し合い活動や協力して活動する場面を設定し、集団でのルールや自分の役割を意識して取り組める環境を整える。 ①② ③④ ⑥⑦	
	家庭・地域社会・関係機関と連携し、学年内のクラスメイトや教師との交流や、所属学年以外の人との校内での交流、諸交流教育を通して、人とかかわる力を養う。	相手や状況に応じたあいさつや言葉遣い、または自分の考えや気持ちを表現する適切な方法を日常生活場面や自立活動を通して身に付け、伝える力を育む。 ①② ⑥⑦	
		連絡帳や学年便り、学年懇談、個別面談などを通して、家庭との密な連携を図り、情報を共有する。 ⑩⑮ ⑯	
		セラピストの巡回相談や医療相談を活用し具体的な指導や支援に活かす。 ⑪⑫ ⑭⑮ ⑯	
		直に対面する交流だけでなく、ビデオやインターネットを活用した活動の充実を図る。 ⑦⑨ ⑩⑰	

中 3	個々に応じた基礎的学力及び基礎的体力の向上を図り、生活の中で主体的に生かす力を育てる。	個別の指導計画に基づき、一人一人の実態や課題に応じたグループ編成での指導や支援を行い、意欲的に学習に取り組めるようにする。	①② ③⑦
		健康と安全に留意し、トレーニングや体育において、個に応じた体力づくりや運動能力の向上を図る。	⑬⑭ ⑮⑯
		生徒の課題を職員間で共通理解し、学習したことを日常生活の中で生かしていけるよう環境を整える。	①② ③④
	日常生活に必要な生活習慣及び身辺処理能力の向上を図るとともに、働くことや職業についての理解を深め、自分の将来や進路について考える力を養う。	キャリア教育の視点に基づき、個に応じた生活習慣や身辺処理能力を身に付けられるようにする。	①④ ⑤
		作業週間や職場見学、高等部見学などを通して、働くことや社会の仕組みについて興味・関心を育てる。	④⑤
		学校生活全般において、自分の役割を意識し、主体的に取り組めるよう環境を整える。主体的に取り組めるような役割や環境を整える。	②⑥ ⑦
	集団生活の中で、人とかかわりあう際のルールや役割が分かり、互いを思いやり、協力しながら生活する力を育てる。	様々な場面での話し合い活動や協力して活動する場面を設定し、集団でのルールや自分の役割を意識して取り組めるよう環境を整える。	②⑥ ⑦
		場に応じたあいさつや言葉遣い、自分の考えや気持ちを表現する適切な方法を身に付け、相手に伝える力を育む。	②⑥ ⑦
	家庭・地域社会との連携を図り、交流活動を通して、豊かな人間関係や社会性を育む。	連絡帳や学年便り、学年懇談、個別面談などを通して、家庭との密な連携を図り、情報を共有する。	④⑧ ⑩⑯
		セラピストの巡回相談や医療相談を活用する。	⑪⑫ ⑯
学校間交流や、居住地校交流の充実を図り、社会性や人間性の育成に努める。		⑨	
高 等 部	基礎的な学力や社会参加に必要な知識・態度・習慣を養い、活用できる力を育てる。	生徒の適切な実態把握とそれに基づいた個別の指導計画の作成と活用及び評価を行う。	①②
		発達段階や特性に応じた学習形態や学習グループの編制をする。	②③
		コースごとの特色ある授業と学年授業の充実を図る。	②③ ④⑦
		タブレット端末等のICTを活用し、個に応じた学習活動の充実を図る。	③
	健康な身体と豊かな情操を培い、根気強く、生き生きと豊かに生活する力を育成する。	学校生活全般におけるあいさつ、身だしなみなど基本的な対人関係構築のための指導を行う。	⑥
		個に応じた体力づくりを推進する。	⑬
		感染症対策を講じ、生徒の特性に応じながら、対外行事へ参加する。	④⑦
	職業教育及び進路指導を充実し、生徒一人一人の実態と適正に合わせた進路先の確保と移行支援に努める。	道徳実践力を高められる授業の工夫、代替案も検討し、体験活動の充実を図る。	⑦
		現場実習・校内実習・デュアル型実習・福祉事業所見学・職場見学・みほとくマルシェ（校内販売）を実施する。	④⑤ ⑦
		外部講師を有効に活用する。	⑤
施設・企業と連携を深め、ネットワークづくりに努める。		⑤⑪	
家庭・地域社会・関係諸機関との連携を推進する。	学習ファイルや連絡帳を活用し家庭との連携を図る。	⑩	
	個別面談や保護者との懇談会を通して情報の共有を図る。また、学校ホームページ等を通して情報発信に努める。	⑩	
	間接的な学校間交流を通して共に学び合う気持ちを培う。	⑨	
	個別の指導計画・個別の移行支援計画を活用し関係機関との連携に努める。	①⑤	
高 1	日常生活に必要な基礎的な学力や生活習慣及びコミュニケーション能力を身に付ける。	外部専門家による巡回指導や医療相談を活用し、関係機関との連携を図る。	⑪⑯
		個別の指導計画の目標を明確にし、発達段階や各コースの生徒の実態に応じた指導内容、方法の工夫と実践に努める。	①② ③
	生徒の実態に応じたあいさつや言葉のやり取りなど、コミュニケーションの力をつけるための指導を工夫する。	⑥	
健康の保持、増進を行い、体力の向上を図る。	朝のトレーニングや体育、部活動の時間を通して、運動経験の拡大に努め、運動量の確保に努める。	⑬	
社会生活に必要な基礎的な態度や能力を養い、進んで働くとする意欲を育てる。	職業や作業などの活動を通して、就労や卒業後の生活について考える機会を作り、勤労への意欲をもてるような支援をする。	④	

高2	生徒の実態に応じて、自立した社会生活に必要な基礎的な学力や日常的な行動及びコミュニケーション能力を育成する。	個別の指導計画の目標と手立てを共通理解し、生徒の障害特性や発達段階、各コースの実態に応じた指導内容の工夫や実践、評価に努める。①②③		
		身だしなみや規則の厳守など、日常的に必要な行動が身に付くための指導や評価を工夫④⑥し、継続する。		
		あいさつや実態に応じた年齢相応の態度、言葉遣いについて効果的な指導や評価を工夫⑥し、基礎的なコミュニケーション能力を育む。		
	健康の保持、増進に向け、安全に留意して、運動時間の確保と体力の向上を図る。	朝のトレーニングや体育、レクリエーション、部活動の時間を通して、安全に留意しながら①⑬ら運動量の確保や体力の向上に努める。		
生徒一人一人の自己肯定感を高めながら、実態に応じた働く態度や技能を育成する。	学校生活全般を通して活躍の場を設定し、作業に必要な態度や技能を身に付けることができるように、生徒の行動を言葉でフィードバックしたり、頑張りを可視化したりする。④			
	現場実習や校内実習の体験をもとに、生徒の実態と適性に合った進路について保護者と共通理解を図る。④			
高3	基礎的な学力や基本的な生活習慣、社会参加に必要なコミュニケーションスキルの定着を図る。	生徒一人一人の実態を把握し、個に応じた個別の指導計画を作成し、指導内容・方法の工夫と実践、適切な評価を行い、基礎的な学力の定着を図る。①②③⑦		
		教育活動全般を通して、日常的なあいさつや返事の定着を図るとともに好ましい話し方やかわり方について指導・支援し、社会参加に必要な態度を身に付けられるようにする。①②③⑥⑦		
	健康の保持・増進と体力の向上を図るとともに、健康な生活に関する意識を高める。	朝のトレーニングや体育、部活動等の時間を通して、体力の向上に努めるとともに、将来に向けて働き続ける力を養う。①②③⑦⑬		
	卒業後の社会生活に必要な態度や技能の定着を図る。	各コースによる作業学習や職業、現場実習の事前・事後学習を通して、卒業後の生活について考え、社会生活に必要な態度や技能を身に付けることができるようにする。①②③④⑦		
職業コース	生活に必要な基礎学力（国語、数学など）の向上を図り、日常生活に生かせるようにする。	学習内容を精選し、適した教材・教具で授業を行う。①③⑦		
		学年ごとの学習形態をとることで、段階的な指導、個に応じた指導を行い、自分から学ぶ力を育てる。①③④⑦		
	職業生活に必要な知識・技能・態度を身に付けるとともに、社会に必要なコミュニケーション能力、実践的な力を身に付ける。	自己の適性や課題が明確になるように現在の自分について見つめたり、幅広い分野の学習を通して働くことの意義を理解したりすることで、それに伴う知識と技能の向上を目指す。①②③④⑦		
		障害者技能検定への参加やデュアル実習、専門性のある外部講師による授業を通して、実践力を身に付けられるようにする。④⑤		
		授業の充実を図り、学年ごとに段階的な内容を展開することで、卒業後の生活に必要なマナーや良好な対人関係、実践的な力を身に付けられるようにする。①③④⑦		
	心身ともに健康に生活しようとする意欲の喚起と体力の保持増進を図るとともに、衣食住に関する知識と技能を高める。	曜日ごとにトレーニングメニューを設定するとともに、生徒達自身が進行の役割を担うことで健康な身体と体力の向上を目指す態度を育てる。⑬		
生徒自ら記入できるチェック表を使用し、清掃を行うようにすることで、責任感と環境美化を意識できるようにする。⑦				
卒業後を想定した課題を精選することで、衣食住に関する知識と必要な力を身に付けることができるようにする。①③⑦				

総合コース	社会生活に必要な言語能力、数的処理能力の向上を図り、日常生活に生かせるようにする。	太田ステージ評価や教師の観察などにより、個々の能力や興味・関心など生徒の実態把握 ①④を十分に行い、教材・教具を工夫しながら日常生活に生きる授業づくりに努める。		
		個々の実態や学習内容に応じて、生徒同士、教師や教材教具との対話的学習など学習形態 ③⑦を工夫し、個に応じた授業を行う。		
	家庭生活への関心を高め、社会生活に必要な知識・技能・態度・コミュニケーション能力を身に付ける。	家庭生活に目を向け、衣食住に関する知識・技能を高められるよう、体験型の学習を取り ⑮⑯入れる。		
		ICTを活用した授業、職場見学や就業を考える学習、外部講師による授業等を通して、自 ③④己の適性に応じた進路選択に向けて、社会生活に必要な力を身に付けられるように支援す ⑪る。		
		身だしなみやあいさつ、丁寧な言葉遣いをはじめとする生活習慣の確立を図るとともに、 ③④就労や福祉サービス事業所などへの移行を意識した体験的な作業や実習を行う。		
	心身の健康に関する意識を高めるとともに体力の保持増進を図る。	日常生活の中でできる心と体の健康に関する知識・技能を高められるよう、保護者との連 ⑬⑯携を図りながら体験型の学習を取り入れる。		
一人一人の体力と健康づくりのために、毎週月・火・水曜日の朝に体づくり運動を中心と ⑬⑭したトレーニングを行う。				
生活コース	自己の適性を理解し、働くために必要な知識や技能・態度を身に付ける。基礎学力（国語・数学）の向上を図り、日常生活に生かせる力を育成する。	太田ステージ評価や教師の観察などにより、個々の能力や興味・関心など生徒の実態把握 ①④を十分に行い、教材・教具を工夫しながら日常生活に生きる授業づくりに努める。		
		個別の学習、集団での活動の形態をバランスよく取り入れて学習量を確保するとともに、 ③⑦相手を意識する力や学ぶ楽しさを味わえるようにする。		
	衣食住などに関する基礎的な知識と技能を習得し、身の回りの整理・整頓など、日常生活に生かせる力を育成する。	衣食住に関心をもち、実践力の育成を図る。 ②④		
		体験的、実践的な活動を取り入れて、保護者との連携を図りながら日常生活で生かせるよ ④⑩うに指導する。		
	社会生活に必要な力を身に付けるための活動を実践的・継続的に行い、福祉サービス事業所などへの移行がスムーズに進められるようにする。	身だしなみをはじめとする生活習慣の確立を図るとともに、福祉サービス事業所などへの ④移行を意識した体験的な作業や実習を行う。		
	朝のトレーニングを継続し、基礎的な体力の維持・向上を図る。 ⑬			
自立活動コース	生活のリズムを維持しながら、さまざまな活動を通して物や人に積極的にかかわる力を育成する。	教師との一対一でのやり取りを通して、対人関係の基礎的な力の育成を図る。 ①②③		
		体操や適切なポジショニングをとることで、身体の緊張をほぐし、側弯や拘縮の進行予防 ①②を図る。		
		楽しめる活動や物を取り入れ、興味や関心の幅を広げることで、自発的・積極的な行動を ②③促す。		
訪問教育	個別の教育支援計画に基づき、家庭・医療・福祉など関係機関との連携を図り、児童生徒個々の教育的ニーズの適切な把握及び健康や安全管理に努める。	保護者との信頼関係づくりを第一に、児童生徒に関係する情報を細かく伝えるとともに、 ⑩⑪病状や体調を含めた個々の状態を適切に把握し、健康の保持に努める。 ⑯		
		実態を客観的に把握し、適切な目標の設定や学習の評価を工夫する。 ①		
	児童生徒一人一人の能力を引き出し、個に応じた指導・支援のあり方を工夫するとともに日々の学習の充実を図る。	個々の実態に応じた教材やICTを活用した指導内容を工夫するとともに、学びの保障の ②③ために効果的なオンライン学習の実施に努める。 ⑦		
		進路指導主事と連携して、ショートステイや日中一時支援事業などの福祉サービスの情報 ④提供に努める。		
児童生徒の地域における豊かな生活づくりを積極的に支援する。	計画的なスクーリングやオンラインによる集会や授業などの交流を実施し、社会性の育成 ④⑨や基礎的なコミュニケーション能力を養う。			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない